



和泉市の歴史・地域叙述編の試みと合同調査

森下, 徹

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 16:14-16

(Issue Date)

2018-01-28

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010235>



和泉市史における合同調査と地域叙述編

和泉市教育委員会文化財振興課 森下 徹

はじめに

大阪府和泉市：神戸の対岸 1956：1町6村合併 1960：1町1村を合併→現市域
もともと近世村60余⇒大字⇒町会 合併前の旧9町村 小学校・中学校区
1970年代～大規模開発 1995 トリヴェール和泉（泉北高速、桃大） 現在人口増ピーク

1. 和泉市史編さん大綱

1996 市史スタート 編さん委員 大阪市大日本史教員 文化財振興課内の一事業
1998 市史編さん大綱確定 2000 大綱の見直し（刊行計画）
刊行計画 全9巻（地域叙述編5巻、テーマ叙述編3巻、通史編1巻）＋別編
史料編は刊行せず → 市史紀要で文書群として紹介・翻刻
←阪神淡路大震災 史料ネットの経験 黒田俊雄氏らの議論
1997～合同調査 1998～榎尾山施福寺・松尾寺の総合調査
史料保存と市史編さんを車の両輪 史料を輪切りにしない
地域史像をどう描くか cf. 旧『和泉市史』1965 市内のあちこちの事例の寄せ集め

2. 合同調査

1997～ 教委と大阪市大日本史研究室との合同調査 毎年夏休み2泊3日合宿 数十人
一つの町会⇔近世村を単位に地域の総合調査 地元町会との連携、「合同」との側面
事前研究 → 調査当日 → 大学の史料講読、市史追加調査 → 報告書 → 報告会
ex. 2017 万町、2016 肥子町などでの合同調査の事例 「小経営」崩壊と地域の再生

3. 地域叙述編

5つの地域区分 地理的自然的条件（谷、丘陵） → 近代行政村の範囲に近似
①横山編『横山と榎尾山の歴史』2005 横山谷 榎尾川上流（旧横山村・南横山村）
②松尾編『松尾谷の歴史と松尾寺』2008 松尾川流域 松尾谷（旧南・北松尾村）
③池田編『池田谷の歴史と開発』2011 榎尾川中流域 池田谷（旧南・北池田村）
④信太編『信太山地域の歴史と生活』2015 信太山丘陵と周辺（八坂町・信太村＋α）
⑤府中編『未刊』2021 榎尾川・松尾川下流の平野部（旧和泉町周辺）
地域のうけとめ 地域の「個性」が反映 叙述スタイル、読みやすさ

おわりに

地域住民との協働の「意義」と「難しさ」 史料の発見、まちづくり、伝説・伝承
古文書講座、歴史講座 → 古文書を読む会 ミニ展示、史料整理ボランティア
文化財行政への「期待」と「圧力」 文化財の活用、地域活性化、観光、

主な参考文献

塚田孝「地域史への模索と全体史-和泉市史の経験から-」、山下聡一「和泉市史における地域の歴史的総合調査」
（いずれも和泉市史紀要第23集『第四回地域史惣寄合報告集 地域の全体史と現代』2016）
拙稿『『文化運動』としての地域史・自治体史-和泉市における-』『第1回地域史惣寄合報告集』2010

和泉市史編さん大綱

和泉市史編さん委員会

1998年4月30日

前文

1965（昭和40）年に『和泉市史』が刊行されてはや30年がたった。この間に、市の人口が増え、地域の景観も一変し、市民生活に大きな変化が起こった。いっぽう、市内の文化財や歴史に関する調査研究が進み、多くの新しい事実が明らかになった。このような状況をふまえて、旧版の『和泉市史』で対象とされなかった近現代史をはじめとし、和泉市の歴史のさまざまな側面をいっそう深く掘り下げて、新たな市史を編さんする。

わたしたちがめざす市史は、市民の生活のなかで受けとめられ、豊かな市民生活とまちづくりに役立つとともに、市民の郷土への愛着心と自治意識を育てるようなものでなければならない。そのためには、この地域の人びとが、太古から現在までどのような生活を築き、発展させてきたかを明らかにするという観点にたって、地域の自然の変化、集落や交通の発達、衣食住や労働の変化、農林業・商業・工業などの産業の発展、冠婚葬祭・宗教・遊戯・芸術・教育・衛生などの移り変り、災害や戦乱・戦争、共同体や政治的支配関係の変化、地域外の動きや国際情勢との関係などを、できるだけ具体的に明らかにすることが必要である。

そのような市史をつくるため、編さん事業は、その土台にしっかりと資料調査をすえ、また新しい研究成果をとりいれて、学問的に高い水準を保たなければならない。そして、多くの市民が親しめるように、記述の内容と表現などにも工夫が必要である。そのためにも、市史編さん事業は、研究者と行政、それらと市民の深い相互理解と協力のもとに進められることが重要である。さらに、市史編さん事業を通じて、歴史資料や歴史的文化財を調査・整理し、それを保存して後世に伝え、市民が活用できるようにすることもきわめて重要な課題である。

I. 編さんの基本方針

1. 和泉市の地域の生活構築の歴史を、歴史学を中心としつつ隣接諸分野の成果も取り入れて、総体的に明らかにする。
2. 資料調査を重視し、それにもとづいた科学的な歴史叙述をするとともに、資料の調査を通じて文化財の保存に努める。
3. 市民が積極的に和泉市の歴史や文化財に関心をもち、市史に親しめるように、広報活動や講座・講演会などの生涯学習にも力を入れ、親しみやすい刊行物にするような工夫をする。
4. 市史の調査で収集した資料は、市民が活用できるように保存管理し、後世に伝えるために、資料の調査・収集・保存・活用機能を備えた施設・機構の整備が今後の課題となる。また、今回の事業だけでは、本市の歴史すべてを網羅できないので、資料の調査研究と刊行は、将来的にも別の事業で補足継続する。

(II. 以下略)

和泉市史紀要

第1集 『旧泉郡黒鳥村関係古文書調査報告書2』	一九九七年	(品切)
第2集 『小田町関係史料調査報告書』	一九九八年	(品切)
第3集 『松尾寺所蔵史料調査報告書』	一九九九年	二〇〇〇円
第4集 『近世黒鳥村の地域社会構造』	一九九九年	(品切)
第5集 『松尾寺地域の歴史的総合調査研究』	二〇〇〇年	二〇〇〇円
第6集 『槇尾山施福寺の歴史的総合調査研究』	二〇〇一年	(品切)
第7集 『近世福瀬村の歴史』	二〇〇二年	一五〇〇円
第8集 『槇尾山と横山谷の調査研究』	二〇〇三年	一五〇〇円
第9集 『高橋家と池田下村の調査研究』	二〇〇四年	一五〇〇円
第10集 『松尾谷南部の調査・研究』	二〇〇五年	一五〇〇円
第11集 『古代和泉郡の歴史的展開』	二〇〇六年	二〇〇〇円
第12集 『和泉市の成立と展開』	二〇〇七年	一五〇〇円
第13集 『松尾谷史料群の調査研究』	二〇〇七年	二〇〇〇円
第14集 『伯太藩関係史料目録』	二〇〇七年	一〇〇〇円
第15集 『泉郡万町村旧記「俗邑録」』	二〇〇八年	一〇〇〇円
第16集 『和泉中央丘陵における村の歴史』	二〇〇九年	一五〇〇円
第17集 『池田谷地域の開発と生活』	二〇一〇年	一五〇〇円
第18集 『和泉市旧町村役場公文書目録』	二〇一一年	一〇〇〇円
第19集 『和泉郡の条里』	二〇一二年	二〇〇〇円
第20集 『和泉の村の明細帳Ⅰ』	二〇一四年	二〇〇〇円
第21集 『和泉史歴史的建造物調査報告書Ⅰ』	二〇一四年	二〇〇〇円
第22集 『和泉市考古学調査報告書Ⅰ』	二〇一六年	一〇〇〇円
第23集 『地域の全体史と現代』	二〇一六年	一〇〇〇円
第24集 『和泉の寺社改帳Ⅰ』	二〇一六年	一五〇〇円
第25集 『和泉市の須恵器研究―調査と編年』	二〇一七年	一〇〇〇円
第26集 『市史「よら」―100選』	二〇一七年	二〇〇〇円
第27集 『近世和泉の村と支配』	二〇一七年	一五〇〇円

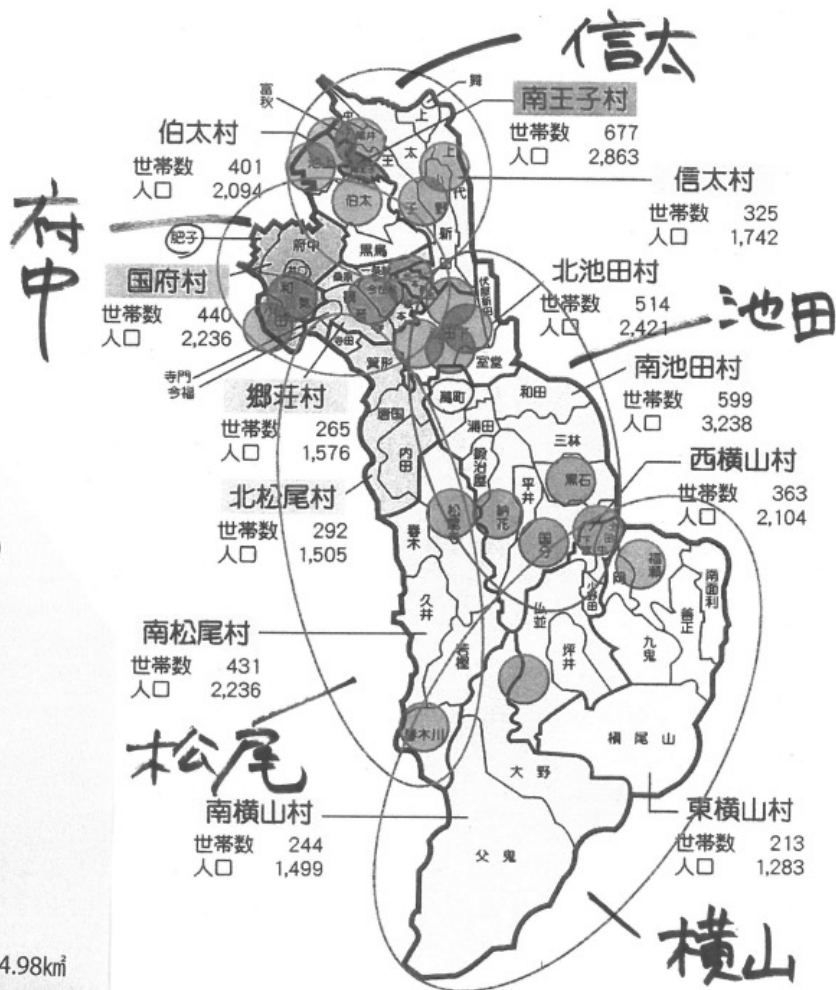


図 『和泉市の歴史』における五つの地域区分と合同調査
 ○：合同調査地 楕円：五つの地域区分
 世帯数・人口は、1891(明治24)年の行政村当時のもの。